

免許証自主返納者にサポート施策を

高齢者沼田署管内で毎年100件前後の人身事故

井之川博幸議員は、高齢者が加害者となり、幼い子供たちや若者が犠牲となる痛ましい交通事故が、全国的に大変多く発生していることから、本市でもこのような事故の発生は防がなければならないことから、高齢者による人身事故の状況や、「免許証自主返納者」に対するサポート施策を充実させ、免許証の自主返納をしやすいことや、マイカーがなくても普通に暮らせるよう「公共交通」の充実を求めました。

市長は、「沼田署管内で、今年10月末までに高齢者がかかわった人身事故は68件発生し、毎年100件前後発生している。」と答えました。



井之川博幸市議

自主返納者は年々増加しているが施策は未実施



アップル号はじめ市が路線バスを委託している関越交通

井之川議員は、県内では18市町村が、自主返納したときにかかる費用1,000円に対する補助、タクシーやバスの回数券などを支給する支援を行なっていることを示し、沼田市でも実施するよう求めました。

市長は、「現在のところ、本市では具体的な施策は行っていないが、沼田署の調査では、運転免許証を自主返納した人は平成26年が33人、平成27年が65人、今年は10月末までに74人」と年々増えていることを明らかにしました。

運転経歴証明書提示による民間企業のサービス施策を

つづいて井之川議員は、県内でも民間企業などが、鉄道やタクシー料金の割引、温泉施設利用料の割引、補聴器の無料貸し出しサービスなどを行なっていることを示し、市内企業などに働きかけをするよう求めました。

マイカーなくとも普通に暮らせるように バス路線のいっそうの充実を

井之川議員は、運転免許証を返納して、マイカーがなくなっても支障なく、普通に暮らせるようにバス路線のダイヤの増便や料金の引き下げなどいっそうの充実を求めました。

市長は、「バス交通を含めた移動支援は、庁内連絡会議を組織して協議を始めたところで、引き続き研究していきたい」と答えました。

バス路線の充実のためにバスターミナルの設置を

井之川議員は、バス路線の充実・効率化のためにも、市役所が移転する中心市街地に、「バスターミナル」の設置を求めました。

市長は、「グリーンベル21が複合施設として再生されることをふまえながら検討していく」と答えました。

デマンドバス・タクシーの第3セクターでの実施を

井之川議員は、「玄関から玄関へ」利用者を送り届けるデマンドバス・タクシーを民間の力を活用できる「第3セクター」方式で実施するよう提案しました。

市長は、民間バス路線の利用客減少を支援する第3セクター化を例にあげて「第3セクターのメリットを生かすにはむずかしい」と消極的な答弁でした。



現状でも路線バスの赤字補てんに年間7,000万円を支出

井之川議員は、現状でも路線バスを委託している関越交通などに年間約7,000万円を補助していることを示し、利用者にとって便利な「玄関から玄関まで」送り届け、予約制のため利用者があるときにしか走らないので、むだがない「デマンド方式のバスかタクシー」をタクシー会社などのノウハウと病院などの患者の送迎を並行して行ない、スーパーマーケットなどの前にも停車することで協力金を納入してもらおうなど、第3セクター方式で行えば、便利で安くできると訴えました。